大学院理工学研究科RA研究発表会

Poster session, 'RA' Graduate School of Science and Engineering, CHUO UNIV.

日	時	2022年12月2日(金)14:30~18:20					
共	催	中央大学大学院理工学研究科·中央大学理工学研究所					
発表方法		Webex Meetings によるオンラインセッション					
参	加	参加無料。学内外者ともに URL へご自由にお入りいただけます。					
問合せ先		中央大学研究支援室 TEL(03)3817-1602·1678/FAX(03)3817-1677					

◇14:30ご挨拶

◇18:15 ご挨拶

◆理工学研究所長 鎌倉 稔成

◆研究開発機構長 石井 洋一

◆理工学研究科委員長 梅田 和昇

専攻		RA氏名	『研究テーマ』	研究	代表者
数学	1	黒田 大貴	A 型ルート系と weyl 群による作用についての研究	佐藤	周友
数子 	2	小野 高裕	関数空間を中心とした調和解析の研究	澤野	嘉宏
	3	遠藤 大樹	統計力学模型やランダム行列模型の流体力学極限およびスケーリング極限に関する 研究	香取	眞理
	4	岡林 史憲	AdS/CFT 対応における非平衡定常状態の有効化学ポテンシャル		
物理学	5	郭 凱華	AdS/CFT 対応による instanton 解の構成	中村	真
	6	須嵜 颯	ゲージ重力双対によるウンルー効果と量子エンタングルメントの解析		
	7	山鹿 汐音	Entanglement dynamics of bosons in a 1D optical lattice	土屋	俊二
	8	倪 稚茗	新たな非接触型電気防食技術に関する研究	大下	英吉
₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩	9	熱海 孝寿	石礫河川の混合粒径数値移動床実験による流砂・河床変動機構に関する研究	樫山	和男
都市人間環境学 	10	島田良	画像解析を用いた非定常的な離岸流の発生特性	小峯	カ
	11	石井 崇晃	Deep Learning を用いた 2-MIB およびジェオスミン濃度の将来予測モデルの構築	山村	寛
	12	顔 世荀	深層学習に基づくサイズの異なる3次元点群の位置合わせ	梅田	和昇
	13	金子 完治	効率的なナノ粒子検出に向けたマイクロシステムの開発	鈴木	宏明
精密工学	14	伊藤 文臣	シャコの打撃動作を規範とした瞬発力発生機構によるキャビテーション発生メカニズムの解明	4	- ↓ ∆π
	15	澤橋 龍之介	装着型力覚提示装置による VR 空間を用いた身体の空間的・時間的拡張における認知機能の解明	中전	太郎
	16	小池 優巴	精密細胞操作に向けた微小物体操作手法に関する研究	早川	健
	17	伊藤 正太郎	超共役と負電荷を利用した新奇芳香族性の創出	万共	洋一
	18	栗木 隆之介	低原子価高周期元素化合物の合成とその化学挙動	Ήπ	<i>/</i> +
	19	岡本 航	ヘモグロビンナノ粒子(赤血球代替物)の開発	小松	見之
	20	山田 大雅	(金属置換ヘモグロビン-アルブミン)クラスターの合成	小松 	
応用化学	21	今泉 暁	モレキュラープリカーサーを用いた機能性無機構造の構築とその物性制御	張浩	告徹
	22	古屋 翔平	アゾメチンイルドの不斉[3+2]環化付加反応を用いるスピロピロリジンの 2,5-trans 選択的 構築	福澤	信一
	23	遠藤 純	熱水を用いた含ハロゲン化合物からの脱ハロゲン化反応	似生	俊孝
	24	小野寺 庸大	高圧混合流体の輸送物性の測定と推算	加坦	汉子
	25	村田 佳亮	複雑な海洋産マクロバ天然物の構造決定	不破	春彦

専攻	RA氏名		『研究テーマ』	研究	代表者
経営システム工学	26	柳下 翔太郎	マリアバン勾配法について	藤田	岳彦
	27	佐藤 冬唯	確率的分散行動制御による領域探査アルゴリズムの実験的評価と定式化	國井	康晴
	28	何 柯文	五層媒質装荷半無限平行平板導波管による平面H波の回折	小林	一哉
電气 桂扣刃	29	Nguyen Minh Duc	誘電体ウェッジによる電磁波の回折に対する解析手法の研究	白井宏	
電気·情報系	30	Ta Quang Ngoc	誘電体円筒による電波散乱の高周波近似解析についての研究		宏
	31	Bui Manh Coung	平板上の複数の方形孔による電磁波散乱		
	32	余 躍海	TiO2/CNT 複合薄膜の光触媒性能向上にむけた計算手法の活用	松永	真理子

RA(リサーチ・アシスタント)制度は、中央大学が主体的に行う共同研究プロジェクトの研究活動の補助業務を行い、研究活動の強化・充実を図り、併せて大学院生の研究能力の向上に資するものです。 理工学研究所・研究開発機構研究発表会と同時に開催し、後楽園キャンパスでの研究成果を一同に会した発表の場となります。 お気軽に会場までお越し下さい。